# 平成 30 年度　第１回　宗像市航路改善協議会
# 議事要旨

日　時：平成 30 年 8 月 29 日（水）　14：30～16;30
場　所：神湊渡船ターミナル　２階会議室

■宗像市航路改善協議会
＜委員＞（敬称略）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会長 | 宗像市総務部交通対策課 | 課長 | 秦　康典 |
| | 九州運輸局海事振興部 | 離島航路活性化調整官 | 川上　知大 |
| | 福岡県企画・地域振興部交通政策課 | 課長 | 片山　潔<br>（代理：渡邊） |
| | 大島島民代表 | | 江坂　實生 |
| | 地島島民代表 | | 中村　正秋 |
| | 地島島民代表 | | 田中　勇司 |
| | 首藤俊行公認会計士税理士事務所 | 所長（公認会計士・税理士） | 首藤　俊行 |

＜事務局＞
宗像市　総務部　交通対策課

＜コンサルタント＞
株式会社ケー･シー･エス九州支社

＜配布資料＞
・議事次第
・宗像市航路改善協議会設置規約
・協議会委員名簿
・資料−１　対象地域の現況
・資料−２　航路改善に向けた検討の進め方（案）
・資料−３　航路に対する地区住民等の意向調査結果

## １．開会

### （１）宗像市航路改善協議会設置規約について

＊事務局から「宗像市航路改善協議会設置規約」について読み上げ、確認を求めた。

**事務局**　：協議会設置規約について質問はあるか。

**各委員**　：なし。

### （２）委嘱状交付

＊事務局から市長名による委嘱状を交付（机上交付）。

### （３）会議成立確認

＊事務局から委員出席数を確認の上、規約第 6 条第 2 項に基づき、本会の成立を確認。出席数 7 名。
傍聴者として九州運輸局立中専門官が参加。

## ２．議事

**会長挨拶（秦交通対策課長）**

本日は、皆様お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。規約に従い、本協議会の会長をさせていただきます。一言御挨拶とお願いをさせていただきます。

皆様、既にご存じのとおり、宗像市営渡船は大島、地島の皆さんの生活に無くてはならない「島の生命線」としての役割を担っていますが、厳しい経営が続いており、国、県からの補助金を頂いて航路を維持している状況です。

また、地島航路の旅客船「ニューじのしま」が老朽化しはじめていますが、これをどうするかといった課題もあります。このような中、市営渡船の運営を将来にわたって持続していくために、この「宗像市航路改善協議会」を設置し、諸々の課題を審議して頂くことになりました。

この協議会設置の費用は全額国の補助金で賄われますが、会議は 12 月までに 3 回の予定となっております。時間が限られておりますので、皆様からの御協力を頂きながら、航路改善計画をまとめたいと思いますので、建設的なご審議をお願いいたします。

議事に入ります前に、本日、ご出席の委員の皆様に自己紹介をお願いしたいと思います。お手元の委員名簿の順に、簡単で結構ですのでお願いします。

**各委員の自己紹介**

・各委員が自己紹介を行った。

### （１）会議録の作成方法について

会長　　：それでは、議事に入らせていただく。お手元の議事次第に沿って、まず、議題（1）会議録の作成について、事務局から説明を願います。

＊事務局から、市の渡船事業運営審議会での取扱要領にならい、発言者ごとに当該発言の要点を記録する方法で作成すること、発言者は委員は個人名、事務局職員は「事務局」と表記することを説明。

事務局　：協議会設置規約について質問はありませんか。

・委員一同、異議なし。⇒承認

**（２）現況調査報告（航路の概要）について**

会長　　：次に、議題（２）現況調査報告について、事務局から説明を願います。

＊事務局（（株)ケー・シー・エス）から現況調査報告について、資料-１を基に説明。

会長　　：ただいまの説明について、ご質問・ご意見はありませんか。

川上委員：地域の現状として、車両の保有数（島にある車両数)、ゴミ・し尿処理施設の状況、宿泊施設の状況はどのようになっているのか。このようなことは、航路について捉えるうえで重要な情報となる。

会長　　：今すぐには難しいと思うが、把握して報告願いたい。事務局でわかっていることがあれば報告願います。

事務局　：車両は調べて報告する。地島には集落排水施設の処理施設はあるが、ゴミの焼却場はない。

田中委員：ゴミの焼却場はない。毎週、漁船で排出（海洋投棄）している。

川上委員：ゴミをどのように処理しているかは重要であるので、それがわかるように資料にまとめること。

会長　　：最終的には、そのような点もまとめていく。

田中委員：不燃物は月に１回、フェリー便で搬出している。
　宿泊施設は以前は民宿があったが、現在はない。

中村委員：　泊にも、宿泊施設はない。店もないような状況である。泊には乳製品など少しおいてあるが、生活するだけの品物はない。

会長　　：購買施設は資料にもあったが、どうか。

事務局（(株)ケー・シー・エス）：漁協の物販店舗があることになっているが、平成 27 年 1 月以降、休業しているという状況である。

会長　　：最新の状況を確認したが、漁協の購買部が平成 27 年 1 月から休業、たまには開いているときもあるらしいが不定期のようである。毎日の食料品、日用品は買い出しに行かねばならない。大島は説明にもあったが、一通り生活基盤が整っているが、地島の人にとっては渡船は欠かせない命綱だといえる。

中村委員：（日々の生活を支える施設は）ほとんどゼロに近い。

会長　　：指摘のあった事項については、補足して資料を作成願いたい。

**（３）航路改善に向けた検討の進め方について**

会長　　：次に、議題（３）航路改善に向けた検討の進め方について、事務局から説明を願います。

＊事務局（（株)ケー・シー・エス）から航路改善に向けた検討の進め方について、資料-２を基に説明。

会長　　：ただいま今後の検討の進め方について説明があった。協議会が３回しかない中で重い課題を検討していかねばならない。今日は、２回目、３回目に向けて、このような進め方で良いか、ご意見をお聞きするのがメインの議題だと思っている。

今後の進め方については、アンケート調査結果報告も踏まえたうえで、ご意見をいただいた方が良いと考えており、ここでは、ご質問、ご意見はいただかず、次の議題（４）島民・渡船利用者アンケートを先にしたうえで、議題（５）として航路改善方策の検討に関する協議において、協議いただければと考えている。よろしいか。

・委員一同、異議なし。

**（４）島民・渡船利用者アンケート**

会長　　：それでは、議題（４）島民・渡船利用者アンケートについて、事務局から説明を願います。

島民委員の方には、５月にアンケートについて説明、ご意見をお聞きし、運輸局及び県（交通政策課）にもアンケートの実施概要とアンケート案についてご意見をお聞きした。本来は協議会の場で行うべきことであるが、国の補助金の手続き等でまだ協議会が立ち上がっていなかったため、個別にご意見をお聞きし、先に進めさせてもらい、このことについてご理解・ご了承をいただいた。

＊事務局（市、(株)ケー・シー・エス）から島民・渡船利用者アンケートの概要、アンケート結果について、資料-3 を基に説明。

会長　　：資料のｐ４の年齢別の利用目的の図の表題、ｐ９航路について改善してほしい点の枠囲いの最初の項目の冒頭、いずれも大島航路とあるが、地島航路に訂正すること。

会長　　：島民・渡船利用者アンケートについて、ご質問・ご意見はありませんか。

渡邊委員（代理）：島外利用者アンケート結果で、利用目的は業務が多いが、季節的要因か、調査期間中に工事をしていたということか。

会長　　：島外利用者アンケートの実施期間は、7 月 12 日～8 月 9 日であり、この期間に地島では、県道の工事や九電の工事が行われており、その工事関係者が利用した影響が大きい。一方、この期間は暑くて釣り客は少なかった。船員の話では、通常は釣り客が相当いるが、この期間はあまりいなかった、観光客は、夏休みであるので、それらしき人は見受けられた、ということであった。

渡邊委員（代理）：定例的な業務利用はあるのか。

会長　　：島民の委員さん、学校等への通勤を別にして、業務で定期的に来訪するようなものはあるか。

田中委員：特にない。

会長　　：定期的に物品販売にくる移動販売もないか。

田中委員：マッサージの人が月に５～６回来ている。公民館で実施している。

中村委員：定期的に来る人は、１人、２人くらいである。

渡邊委員（代理）：ガスの検針や宅配便の配達とかはどうか。

田中委員：ガスは漁協が管理している。
会長　　：宅配便は、クロネコヤマトの宅配物の地島への輸送は船員が行っている。
田中委員：九電の検針は、月に１回は来ている。

川上委員：今後の検討の進め方について、九州全体・全国を所管している観点から少し話したい。航路の利用実績、宗像市の人口等を踏まえ、これまでの九州全体・全国のリプレイスへの対応実績を考えると、ニューじのしまのリプレイスは、現状よりも小型化したものしか認められないと思われる。他の離島航路の船舶も 20 トン未満のものに置き換わってきており小型化が進んでいる。実績等からみると、小型化は避けられない状況だと思う。

もう一つは航路再編についてである。アンケートをみても島民の皆さんは統合を望んでいないことはわかるが、大島・地島の両航路の欠損額は大きく、航路の経営状況は厳しい。今後、航路の存続を考えた場合に、航路の再編によりコストの削減と、安定した航路運営が期待できることから、航路再編について考えていくべきだと思う。

航路の再編を考えたときに、船のスペックも変わってくる。両方の航路の需要を考えたときに、それにあった船舶を考える必要があり、場合によっては小型化は避けられるかもしれない。

ニューじのしまのリプレイスとして、先行して、小型化して船舶を建造した場合、航路再編の様々な支障となり、航路再編が大きく遅れることになる。ニューじのしまの船齢が 17 年であるが、差し迫った状況ではない。これらのことを見極めながら、まずは航路再編を含めた一体的な考え方で進めてもらってはどうか。

田中委員：航路再編となると、乗船時間が長くなる、それに大島経由で地島に行くとなると、当然運賃が高くなることが懸念される。
川上委員：そのようなご心配はわかるが、再編のやり方によっては、利便性を上げる、落とさないこともあり得る。
田中委員：どのようなことか。
川上委員：航路再編にはいろいろな方法があり、市で具体的に検討が行われる。
会長　　：そのことが今回の航路改善の核心である。まず船舶のリプレイスするのかどうか、そしてそれが航路再編どのように関わるのか、市・コンサルタントで再編の方法を検討しており、その検討結果をみて、これからの話を進めていきたい。川上委員からヒントになるご意見もいただいたかと思うが、島民の方の利便性を落とさず、うまくまとめていくような案をここで考えていきたい。

田中委員：地島島民からみれば、合併後、航路再編を行い経費の削減はある程度できたと考えている。従来は鐘崎に行っていたのを、反対ではあったが協力して、神湊１ヶ所にしたことで、全体的な経費抑制に寄与した。こうした経緯を踏まえて、航路統合はいまさら感がある。
中村委員：船の大きさは、現在の大きさがちょうどいいと感じている。小型化すると欠航が多くなり、利便性が劣る。小学校の先生の通勤など、これは生活に支障が出る。今の船は 4m、5m の波でも運航し、良く動いてくれている。
田中委員：今の船を改造して使えるようにすれば、良いのではないか。
会長　　：そのようなことも選択肢の一つとしてシュミレーションし、検討していく。中村委員が

言われるように、玄海灘での運航ということもあることも考慮して検討する。

田中委員：経費削減ありきの検討であれば、小型化して、便数も減らしてということになってくる。島の実情も理解してもらったうえで、検討してもらいたい。

経費削減を最優先すれば、小型化、減便して経費もかからず、船員もあまり要らないようにすれば手っ取り早い。ただ、航路は島民の生活、命綱と一緒である。小型化した結果、欠航が多くなり、生活物資も届かないことになる。また、高齢化も進む中、老人が小さな船に揺られて出かけなければならない。このようなことを考えると、現在の状態（航路のサービス）をできるだけ長く続けてもらいたい。

中村委員：泊港では、波止場の消波ブロックがなく、返しの波が大きいと大回りしないといけない。凪のときは問題ないが、少し西風が強くなると影響を受ける。そのことも市（水産振興課）に要請しているがなかなか対応してもらえない。

会長　　：欠航率については、鐘崎に着いていた方が少なかったということだろう。神湊港は港の入口が狭いので、欠航しやすい面がある。それに加えて、小さな船になるとなおさらかもしれない。

中村委員：今は、神湊でもニュージのしまは良く動いている。

会長　　：現在のニュージのしまに対しては、アンケート結果を見ても、重心が低くてどっしりしていて、乗降もしやすい。バリアフリー船ではないけれど、良い船と愛着持っていただいているようだ。

会長　　：少し次の議題に係るご意見もいただいたが、アンケートについてのご質問等はありませんか。

中村委員：港の整備は目的によっていろいろであるので、なかなか難しい。それが 100%できるかというと、そういうわけではない。オリンピックのような大イベントでもないと港の整備はなかなか進まない。

会長　　：泊港には、浮桟橋の計画があり、今年度中に水産振興課が浮桟橋を整備予定である。ただし、渡船のための施設ではなく、水産振興関連の施設である。

中村委員：それが先ほどの 100%でないということで、50%か 60%程度である。

会長　　：浮桟橋の整備が進んでおり、整備されると、アンケートにもあった船の乗降に関する課題は解決できる。

田中委員：規約第８条に会議の内容は外部にもらしてはいけないとあるが、委員として出席している者の立場からは、本会議の内容を島民に話しておかないといけないと思う。最後に、このようになったということになれば、委員として何をしに行っていたのかを問われる。この規約通りであれば、会議内容を心の内に留めざるを得ないが、それでは会議に出席しても意味はないので、出席を辞退することになる。その辺りはどのように考えているのか。

会長　　：規約はこうなっているが、アンケートの結果や会議での方向性などについての説明を住民の皆さんから求められれば、説明会を行う。また、この会議の開催自体は公開しており、傍聴も可能である。しかるべき時（10 月くらいか？）に、アンケートの結果や協議会の各回ごとの要点についての住民説明を行いたいと考えている。

中村委員：いくつものこのような会議の委員等として出席している。欠席した場合は、どうなっているのかと問われ、休むことも難しい。

会長　　：島民代表として来られており、忙しい中来ていただいて、島民の方にどのように報告すればよいのか悩ましいところもあると思う。その際は、市（交通対策課）でフォローさせてもらうのは当然と考えている。

会長　　：首藤委員、ご意見、感想でも、何かありませんか。

首藤委員：欠損が大きいとの話を聞いているが、アンケート結果を見ると、運賃の値上げも許容可能との意見も見られる。これはどういった程度のニュアンスか。例えば、航路がなくなるくらいなら運賃値上げもやむを得ないということなのか、・・・どのようなニュアンスか。

田中委員：アンケート実施の際に住民会合（総会）を開催した。その際、航路が赤字だということであれば、市民（島民だけでなく）の 70 歳以上の運賃無料というものを廃止してはどうか、若い人のために航路を継続していくために、高齢者も負担すべきではないかという話をしてみた。高齢の人からの反発もあるかもしれないが、高齢者もそのような気持ちで対応しようと働きかけた。それに対して、大方の理解を得られている。

中村委員：検討段階では、市民全体、島民だけなどの議論もあった。70 歳以上とすると高い割合になるので 75 歳以上にという話もあった。

会長　　：高齢者の運賃割引の廃止は市の財政支出は削減できるが、市が補助しているので、国、県からみれば、航路事業の収支は変わらない。

田中委員：市が全額補助すれば、国・県の補助金をもらわなくても済む。

中村委員：島民の人に聞くと、やはり無料の方が良いという意見も多い。対象年齢を 80 歳、85 歳とかにして継続してはどうか。

会長　　：増収対策については、どの程度値上げすれば、収支にどの程度影響するのか検討していきたい。

中村委員：国民年金で生活している住民にとっては、年金額も低く、高齢者割引が廃止され運賃負担が増えると厳しい状況もある。

会長　　：大島航路も、最近観光客が増えているが、基本は同じで、収支的には釣り合っていない。

江坂委員：アンケートでは、許容できる取組みの選択肢が限られており、選択肢の中から止むを得ず選択したところがある。

　70 歳以上の運賃無料については、国民年金の年金額は少なく、60 歳からもらっている人もいる。70 歳以上の無料化を待っていた人も多いと思う。

中村委員：これからは 100 歳時代という話も聞く。

会長　　：島には元気な高齢者が多い。

会長　　：アンケートについては、確認いただいたということでよろしいか。

・委員一同、異議なし。

**（５）航路改善方策の検討に関する協議**

会長　　：すでにアンケートのところでも、航路改善方策の検討に関わる意見もいただいた。次回には、航路診断、経営診断の報告をもらい、そのうえで、航路再編をするのか、このまま

で良いのか、また船をどうするのか、新たな建造を行うのか、小型化する場合にそれで耐えうるのか等、多面的な観点を盛り込み、数パターンの経営（収支）シミュレーションを行った結果を基に、検討していきたい。

資料-2 の p10 にはシミュレーションのパターンの考え方の提案を記載している。その結果を基にどのような航路改善の方向性が望ましいのかを見出していきたいとのことであるが、このことについて意見をいだきたい。

川上委員：九州管内の他地域では小型化の方向で進んでいる。今の状況をみると、国としては小型化の方向で進むと思う。これを避けるためには、航路再編と合わせて、現行船舶の規模をキープすることで検討していくべきだと考える。航路再編を行いつつ、現行船舶の運航を継続し、その後に新船建造について検討するというステップで考えてはどうかと思う。

渡邊委員（代理）：複数パターンでのシミュレーションで将来収支予測等を行うことは、今後の航路運営を考えるうえでも有効だと考えられる。ただし、島民の生活等への影響も検討の中では十分に加味していくべきかと思う。

江坂委員：航路診断、経営診断の資料は事前に提示されるのか。

会長　　：資料が整えば、事前にお示しできるようにする。

中村委員：今回、新たな船を建造して、それを次の世代に引き継いだ方がいいと考える。現在は島民も 150 人いるが、その次になるとどうなるかわからないところがある。

会長　　：船を新造すれば、最低 20 年、普通には 25 年は動かせてもらわないといけない。ニュージのしまは 17 年なので、もう少し頑張れるところもある。人口など多面的な観点から新船建造は考えていく必要がある。

田中委員：現在の船を改修しながら少しでも長く使っていきたい。小型化は考えられない。その上で、運賃等住民も金銭的な負担をし、赤字を抑制する手立てを講じていってはどうかと考える。

首藤委員：財政的な面では、赤字幅は大きく、近年、増加傾向にある。一般的に船が古くなれば修繕費もかさむということもある。新船にすれば、建造費はかかるが、技術革新等による省エネ化等でランニングコストが下がるということもある。それらをシミュレーションの中で数字をみながら検討していくことになると考える。また、船舶の設計によっては、さほど小さくしなくても、燃費を抑えることも可能かと思われる。

会長　　：事務局から、何かあれば、どうぞ。

事務局（(株)ケー・シー・エス）：なるべく早めに資料を提示したいと思うが、シミュレーションの作業が複雑で時間を要するため、シミュレーション結果は当日確認いただくことになると思われる。可能なものは早めにお示ししたい。

会長　　：本日の検討結果を踏まえてシミュレーションを行い、その結果をみて検討を行いたい。3 回目の協議会を踏まえて、航路改善計画としてのとりまとめを行う。最終的には市の渡船事業審議会で方針を決定することになる。

今後の進め方は、資料-２に基づき行うことでよろしいか。

・委員一同、異議なし。

**（６）今後のスケジュールについて**

会長　　：今後のスケジュールについて、事務局から説明願います。

＊事務局（市）から次回スケジュールについて説明。
　次回は９月２６日に開催、開催時間は 14:00 からとする。

会長　　：島民委員の方は、渡船の関係で待ち時間があったりして申し訳ございませんが、よろしくお願いします。協議会自体３回しか開催されませんので、皆様お忙しいとは思いますが、ご出席よろしくお願いいたします。
　また、協議会を補足する意味で、住民説明も必要かと考えているので、私か係長までご連絡ください。

**（７）その他**

会長　　：最後に、委員の皆さん、事務局から何かあれば。

＊特になし。

会長　　：それでは本日の協議会はこれで終了とする。次回 9 月 26 日、よろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。